

- 1 地中海の歴史について述べた以下の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A～Bに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

海が作り出す地域的なまとまりは、海域世界などと呼ばれて、その歴史的役割が近年重要視されている。地中海は、その代表的事例であり、古来、その沿岸諸地域を結び付ける交通路の役割を果たしてきた。1000以上のポリスを建設した古代ギリシア人は、地中海沿岸各地と交易をおこない、ローマ人は、地中海を内海とする帝国を建設した。

7世紀以降、イスラーム勢力が進出するようになると、地中海は、イスラーム勢力、ビザンツ帝国、ヨーロッパ諸国という三者間のさまざまな交渉の舞台となった。中でも、イタリアの諸都市によって担われた東西の交易は、多くの物産の売買のみならず、人や文化の交流をおおいに促進した。

16世紀からは、オスマン帝国の拡大とともに、ヨーロッパ諸国は地中海の制海権を失い、彼らの貿易の中心は大西洋沿岸地域へと移動した。しかし、18世紀以降、ヨーロッパ諸国の地中海再進出が本格化し、各地に海軍拠点も設けられて、地中海は再び東西交易のルートとしての地位を取り戻していった。スエズ運河の開通がその決定打となったことは言うまでもない。

現在では、2008年に地中海連合が発足し、EU諸国と地中海沿岸諸国との交流促進が目指されている。

- (1) 古代ギリシアについて、正しい説明はどれか。

- a 海外に建設された植民市の大部分は、母市であるポリスに従属し、その一部を構成していた。
- b アテネの僭主ペイシストラトスは、中小農民を保護し、商工業の振興に努めるなど、アテネの発展に寄与した。
- c マラ톤の戦いでギリシア側の勝利により、ペルシア戦争全体の勝敗が決した。
- d アレクサンドロス大王の東方遠征に始まるヘレニズム時代は、約200年間続いた。

- (2) 古代ローマ帝国について、誤っている説明はどれか。

- a ウァレリアヌス帝はパルティアと戦い、敗れてその捕虜となった。
- b カラカラ帝のアントニヌス勅令によって、帝国の全自由人にローマ市民権が与えられた。
- c コンスタンティヌス帝は、東西ローマ帝国双方を支配する皇帝となった。
- d 専制君主政（ドミナトゥス）の下では、官僚制と軍隊による中央集権的な支配が行われた。

- (3) 十字軍について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

- ① 第2回十字軍には、英仏の国王と神聖ローマ皇帝が参加した。
  - ② 1291年、イェルサレムが陥落して、イェルサレム王国は滅亡した。
- a ①—正 ②—正
  - b ①—正 ②—誤
  - c ①—誤 ②—正
  - d ①—誤 ②—誤

- (4) 大モンゴル国や元を訪れていない人物は誰か。

- a プラノ＝カルピニ
- b マテオ＝リッチ
- c マルコ＝ポーロ
- d モンテ＝コルヴィノ

- (5) 地中海で主に用いられた船はどれか。

- a ガレー船
- b ガレオン船
- c ジャンク船
- d ダウ船

- (6) 大航海時代以前に、東方世界からヨーロッパに伝えられていないものはどれか。
- a 砂糖                      b 製紙法                      c トマト                      d ベスト
- (7) オスマン帝国とヨーロッパ諸国との戦いではないものはどれか。
- a アンカラ（アンゴラ）の戦い                      b コソヴォの戦い  
c プレヴェザの海戦                      d モハーチの戦い
- (8) 大西洋貿易について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。
- ① アフリカとアメリカ大陸の間で行われた黒人奴隷貿易は、18世紀までに終息した。  
② 大西洋貿易により新たにもたらされたコーヒーやタバコなどの商品は、西欧諸国で生活革命を引き起こした。
- a ①—正      ②—正                      b ①—正      ②—誤  
c ①—誤      ②—正                      d ①—誤      ②—誤
- (9) 19世紀の地中海世界における以下のことがらを古い方から時代順に並べた場合に、3番目に来るものはどれか。
- a イギリスによるキプロス島占領と行政権獲得  
b イギリスによるマルタ島獲得  
c オスマン帝国によるギリシア独立の承認  
d シャルル10世のアルジェリア出兵
- (10) スエズ運河について、正しい説明はどれか。
- a 1875年、イギリスは、フランス政府所有のスエズ運河会社の株を買収した。  
b 1875年の買収時、イギリス首相グラッドストーンがこれを主導した。  
c エジプト王国成立後、イギリスは軍隊を撤収し、以後、スエズ運河会社経営を通じて運河を支配した。  
d 1956年のスエズ運河国有化に対抗して、イギリスなどは第2次中東戦争を引き起こした。

設問A 前5世紀にアテネのパルテノン神殿の再建工事と装飾に関わったとされる彫刻家の名前を記せ。

設問B 13世紀に両シチリア王国が分裂してできた王国のうち、シチリア島に所在しなかった王国の通称を記せ。

- 2 冷戦時代について述べた以下の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A～Cに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

第二次世界大戦後の世界で大きな力をもったのは、アメリカ合衆国とソ連であった。戦争中は連合国として協力した両国であったが、戦後は、資本主義圏と社会主義圏の間で対立状態が続いた。しかしこの対立は両陣営の間の軍事衝突をとまなうものではなかったので、「冷戦」と呼ばれた。

1953年にソ連の指導者スターリンが死去すると、1955年には米英仏ソの4カ国首脳によるジュネーブ4巨頭会談が開催され、冷戦の「雪どけ」が期待された。さらに1956年のスターリン批判を受け、ポーランドやハンガリー、チェコスロヴァキアでは自由化運動が起こったが、体制転換にはいたらなかった。また、「雪どけ」から平和共存への道のりは遠く、1961年にはベルリンを東西に分断するベルリンの壁が築かれた。さらに、翌年、ソ連のキューバにおけるミサイル基地建設を契機として、冷戦が核戦争に転じる危険さえ生じた。ところがこの危機が回避されると、東西関係に緊張緩和への動きが生じた。

西ドイツ(ドイツ連邦共和国)に成立した社会民主党政権下で、社会主義諸国との関係改善をはかる東方外交が開始され、1970年にはポーランドとの戦後国境を定めた国交正常化条約が締結された。1975年にヘルシンキで開催された全欧安全保障協力会議(CSCE)では、主権尊重、武力不行使、科学・人間交流の協力をうたったヘルシンキ宣言が採択された。同会議は東西陣営間の相互承認の一環であったものの、そこで合意された内容は、やがてソ連や東欧諸国の民主化を求める勢力を後押しする力ともなった。

- (1) 第二次世界大戦期の国際関係について、正しい説明はどれか。
- a 1941年4月、ソ連と日本は日ソ中立条約を締結した。
  - b 1941年8月、ローズヴェルトとチェンバレンの会談で戦後構想を示す大西洋憲章が発表された。
  - c 1945年2月のヤルタ会談には、急死したローズヴェルトに代わり、トルーマンが出席した。
  - d 米・英・ソ3国首脳はポツダムで会談し、ドイツ降伏後3ヶ月以内のソ連の対日参戦などを決めた。
- (2) 冷戦期、独自の社会主義建設を行ったユーゴスラヴィアは、ソ連に対し自主的な態度をとった。ユーゴスラヴィアについて、誤っている説明はどれか。
- a 1945年、連邦人民共和国の成立が宣言された。
  - b 1945年、第二次世界大戦期のパルチザンの指導者ティトーが、首相に就任した。
  - c 1948年、コミンフォルムを除名された。
  - d 1961年、ザグレブで非同盟諸国首脳会議が開催された。
- (3) この会談に出席した、軍人出身のアメリカ合衆国大統領を選べ。
- a アイゼンハワー
  - b ケネディ
  - c トルーマン
  - d ニクソン
- (4) スターリン批判を行ったフルシチョフについて誤っている説明はどれか。
- a 西ドイツと国交を回復した。
  - b 平和共存政策は中国によって「修正主義」と批判された。
  - c 農業政策の失敗などを理由に失脚し、ブレジネフが第一書記となった。
  - d ポーランドの反ソ暴動(ポズナニ暴動)に軍事介入した。



- 3 以下の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A～Bの問いの答えを、記述解答用紙の所定欄にすべて漢字で記入しなさい。

中国では2世紀末に黄巾の乱がおり、後漢の統治体制が崩壊して魏・呉・蜀の三国が分立し、魏晋南北朝と総称される長い分裂の時代を迎えた。この時代には、社会の混乱を收拾させるために、いくつかの政権は新しい土地制度や税制度を導入した。

社会混乱を招いた原因の一つは、民族移動と民族対立であった。西晋の朝廷に内紛がおこると、その機に乗じて、華北に移住していた匈奴の劉淵が自立して漢(前趙)を建国し、西晋は滅んで五胡十六国時代が幕を開けた。五胡十六国は北魏によって統一されたが、その北魏の末期には北方の辺境から六鎮の乱がおり、何度目かの大規模な民族南下現象を引き起こした。後に隋唐の皇室となる勢力も、この時に中国内地に入ってきた。

その反面で、魏晋南北朝時代は、今日中国社会に影響を残す文化の基礎が形成された時期でもあった。仏教は後漢の時代に伝わったといわれるが、中国に定着したのはこの時代である。亀茲出身の鳩摩羅什は長安に来て仏典約300巻を漢訳し、また中国僧もインドに留学した。さらには中国各地に石窟寺院が造営された。道教が確立したのもこの時代である。道教は後漢末の民間宗教結社の流れを汲み、北魏の寇謙之によって教団が形成された。一方、南朝では書・画・文芸などの分野で華麗な貴族文化が発展した。

中国の魏晋南北朝時代は、朝鮮半島や日本では国家形成期にあたっている。日本には渡来人が高度な技術や文化を伝えて列島の政治・文化の発展に寄与したが、これも民族移動の余波と見られる。

- (1) 三国・西晋の政治的展開について、誤っている説明はどれか。
- a 曹丕が後漢・献帝の禅譲を受けて魏が成立した。
  - b 建業に都を置いた呉は魏の攻撃を受けて滅亡した。
  - c 劉備は四川に蜀を建て諸葛亮を丞相とした。
  - d 魏の実力者の子である司馬炎が禅譲を受けて西晋を建てた。
- (2) 諸王朝の実施した制度について、誤っている説明はどれか。
- a 魏は屯田制を施行した。
  - b 西晋は戸調式の税制を発布した。
  - c 五胡の諸国では土断法が行われた。
  - d 北魏は均田制を施行した。
- (3) この出来事は何というか。
- a 永嘉の乱
  - b 黄巢の乱
  - c 赤眉の乱
  - d 八王の乱
- (4) この王朝の首都、平城があった場所は現在のどこか。
- a 河南省安陽市
  - b 河北省北京市
  - c 江蘇省揚州市
  - d 山西省大同市
- (5) この混乱後の政治史について、誤っている説明はどれか。
- a 東魏の実権者高歓は、洛陽から鄴に都を遷した。
  - b 西魏は長安を拠点とし、府兵制を施行した。
  - c 東魏・西魏の対立期は、南朝では梁の時代にあっていた。
  - d 北周からの禅譲で成立した隋は、北斉を併合して華北を統一した。

- (6) この僧が訳した漢訳仏典は「旧訳」といわれるが、後に仏典の「新訳」を行い法相宗の教義を開いた僧は誰か。
- a 義浄                      b 玄奘                      c 智顛                      d 仏図澄
- (7) 洛陽郊外に造営された石窟はどれか。
- a 雲崗                      b 莫高窟                      c 仏国寺                      d 竜門
- (8) この伝統道教を改革して、金代には全真教という道教教団が成立した。全真教の開祖は誰か。
- a 王重陽                      b 慧遠                      c 恵果                      d 陸九淵
- (9) 書聖と称され、後世の漢字の書体に大きな影響を与えた人物は誰か。
- a 王羲之                      b 呉道元                      c 顔真卿                      d 顧愷之
- (10) この時代の出来事に相当しないものはどれか。
- a 大祚榮が中国東北地方に震国を建国した。
- b 倭の五王の朝貢が中国の歴史書に記された。
- c 高句麗で「広開土王碑」が建てられた。
- d 三韓の一つの馬韓を中心に百済が成立した。

設問A インド旅行記である『仏国記』を著した東晋時代の僧の名を記せ。

設問B 張陵が蜀で創立した教団で、後に天師道と呼ばれた宗教結社の名称を記せ。

- 4 東南アジアの貿易について述べた以下の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また波線部A～Cに関する問いの答えを記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

明の永楽帝は各地に兵を送ってジャワ、マラッカ、インド洋沿岸の各地に明の勢力を誇示し、この地域で明を中心とする朝貢貿易が活発に行われた。マレー半島南西部に成立したマラッカ王国は明の支援を受けて、東西貿易の中継地として急速に発展した。ベトナムは永楽帝の軍に一時占領されたが、黎朝は独立を回復し明と朝貢関係を結んだ。琉球王国も明の冊封をうけて朝貢貿易に加わり、東シナ海と南シナ海を結ぶ中継貿易を行って栄えた。

16世紀に入り、東南アジアへのヨーロッパの進出がはじまった。1511年、ポルトガルがマラッカ王国を占領したため、ムスリム商人は拠点を移動させ、スマトラ島、ジャワ島の各地にイスラーム国家が台頭した。

16世紀後半にスペインのフェリペ2世がフィリピンを侵略して建設したマニラは、中国をはじめとする南シナ海諸地域とアメリカ大陸との間の中継拠点となった。

17世紀に入るとオランダはジャワ島を根拠地としてポルトガル商人を排除しつつ香辛料貿易の実権を握った。さらにイギリスを排除して、オランダ領東インド支配の基礎を築いた。一方、1600年に東インド会社を設立したイギリスはインド経営に力を注ぎ、3回の英蘭戦争を通じて17世紀末には世界貿易の覇者となった。

- (1) 永楽帝が即位した際の内乱を何というか。  
a 靖康の変      b 靖難の役      c 土木の変      d 戊戌の政変
- (2) 15世紀にマラッカ王国と対立した国はどれか。  
a アユタヤ朝      b シャイレンドラ朝  
c スコータイ朝      d タウンゲー朝
- (3) 黎朝について、誤っている説明はどれか。  
a 黒旗軍によって清に抵抗した。  
b 朱子学を振興した。  
c 阮氏と鄭氏の政権によって二分された。  
d 明の統治制度をとりいれた。
- (4) 15世紀初め、琉球を統一した人物は誰か。  
a 阮福暎      b 尚巴志      c 趙陀      d 劉永福
- (5) ポルトガルについての以下のことがらを、古い方から時代順に並べた場合に、3番目に来るものはどれか。  
a インドのゴアを占領  
b ポルトガル人が種子島に漂着  
c マカオに居住権を獲得  
d マゼランが世界一周の旅に出発
- (6) この時期スマトラ島に台頭した国はどれか。  
a アチェ王国      b シュリーヴィジャヤ王国  
c チャンパー王国      d マイソール王国

(7) フェリペ2世と在位期間が全く重ならない君主は誰か。

- a エリザベス1世
- b アクバル1世
- c イヴァン3世
- d スレイマン1世

(8) オランダについて、誤っている説明はどれか。

- a ケープ植民地に入植した人々の末裔は後にトランスヴァール共和国、オレンジ自由国などを建国した。
- b 現在のジャカルタにあたるバタヴィアを東インド交易の根拠地とした。
- c マンハッタン島にニューアムステルダムを建設した。
- d 探検家タスマンはハワイで先住民に殺された。

(9) オランダ領東インドで行われた経済政策はどれか。

- a エンコミエンダ制
- b 強制栽培制度
- c ザミンダーリー制
- d ライヤットワーリー制

(10) 17世紀半ば、イギリスが商業上の拠点としなかった町はどれか。

- a カルカッタ
- b シャンデルナゴル
- c ボンベイ
- d マドラス

設問A 永楽帝の命令で南海遠征を行った宦官の名を記せ。

設問B マニラと太平洋航路で結ばれていたメキシコ南部の港市の名を記せ。

設問C イギリスがインドネシアから撤退する契機となった1623年の事件の名を記せ。

[以下余白]